人工知能(AI)は人類に幸福をもたらすのか　　トワン・レ・ホワイ・アイン

私たちは幸せをどうやって感じ取っているのでしょうか。

私は五感を通して、私たちは世界を感じ取り、それと同時に幸せを感じ取っているものだと思っています。

人によって最も優れている感覚機能が違ってきます。

そのため、幸せもさまざまな形を持って居ます。

ある人は、人に抱きしめられて、肌の温かみで幸せを感じ、

ある人は、もらったものを読んで、幸せを感じ、

ある人は、作ってもらった料理の味に、幸せを感じ、

ある人は、ささやかれた甘い言葉に、幸せを感じ、

ある人は、洗濯してもらった服の匂いに、幸せを感じます。

そうやって、人は記憶を、五感を通して体に刻み込みます。

しかし、「現代の人は幸せではない」とよく言われています。

それは、五感を通して世界を感じ取ること忘れ、自分の感覚を鈍らしているのではないかと思います。

人は常に自分の存在価値を残したい生き物です。

写真を取ること、子供を作ること、仕事をすること、誰かとつながること。

それは全て、自分が生きている証を残したいからです。

その究極は人工知能ではないかと思います。

人工知能は死ぬことはない、自分の記憶とともに永遠に生きることができます。

だから、人工知能に記憶を共有し、刻み込みます。

でも、人は忘れてしまったのです。

それをともに共有する人が居なければ、記憶は存在価値を持たないのです。

知識は共有できても、その時に生きなければ、その気持ちまでも共有することができません。

気持ちの共有は、言葉ではないのです。

五感を通して、私たちは限りなく他者と同じ気持ちを共有することができます。

嬉しい時は、抱きしめて、肌の温度を感じたりすることで、幸せというものが象っていくものではないでしょうか。

人工知能はあくまで、私たちが幸せだった記憶を残すものであって、幸せを作るものではないと思います。

あなたは自分の五感をどこまで使って居ますか。

五感を研ぎ澄まして、世界を見るといつもと違う景色が見えるはずです。

今、この時の匂い、味、音、色、そして肌感覚はどうですか。